

研究紀要第8号
2019年3月

イタリア言語・文化研究会

第1回 (1988.6.25)

- (1) 三森のぞみ：中世末期フィレンツェにおけるコンフラテルニタ（兄弟会）について
- (2) 亀崎勝：ブランカッチ礼拝堂のフレスコ画をめぐって

第2回 (1988.10.15)

- (1) 勝田由美：アンナ・マリア・モッツオーニの『女性とその社会的諸関係』（1864）について
- (2) 藤岡寛己：1919－1920年（4月）期の工場評議会とグラムシ

第3回 (1988.12.10)

- (1) 松本佐保：14世紀トスカーナ地方における労働者の研究
- (2) 関根秀一：ボッティチェルリの『三王礼拝』

第4回 (1989.2.4)

- (1) 出射悦子：コンメディア・デラルテについて
- (2) 小林勝：1920年代のG. プレッツォリーニ

第5回 (1989.4.22)

- (1) 布施一夫：フラ・アンジェリコの『十字架下降図』について
- (2) 菅田茂昭：サルジニア島のことは

第6回 (1989.6.10)

- (1) 池谷知明：イタリアの政党システムについて
- (2) 小田内隆：12世紀のイタリアの宗教史の側面

第7回 (1989.10.28)

- (1) 田澤美智子：イタリアの新聞について
- (2) Luigi Polese Remaggi：I “Ragionamenti” di Francesco Carletti: invito alla rilettura dell’opera letteraria di un mercante fiorentino

第8回 (1989.12.9)

- (1) 工藤裕子：イタリア官僚制の行政的・政治的機能と政党
- (2) 今井桜子：後79年埋没当時のポンペイ第一様式について

第9回 (1990.2.7)

- (1) 西村安弘：ジョヴァンニ・ヴェルガの自由間接話法とネオレアリズモ映画の系譜
- (2) 児嶋由枝：或る踏み絵の系譜—ミケランジェロのピエタとの関連について

第10回 (1990.4.21)

- (1) 根占献一：イタリア・ルネサンスにおけるフォルトゥーナの意義
- (2) 池上公平：ルネサンスの「風景画」

第 11 回 (1990.6.16)

- (1) 松本佐保：14 世紀フィレンツェと穀物供給
- (2) 野口昌夫：イタリア中世小都市の都市組織と形成過程

第 12 回 (1990.10.6)

- (1) 亀永洋子：中世イタリアにおける寡婦
- (2) 木名瀬紀子：ボッティチェルリの「ヴィーナスの誕生」図におけるヴィーナス図像についての一考察

第 13 回 (1990.12.8)

- (1) 徳橋曜：中世商人の地縁の関係に関する考察の試み
- (2) 五十嵐勇：16, 17 世紀のフランス・イタリアにおける食への宗教規則の状況変化について—バターとオリーブ油

第 14 回 (1991.2.7)

- (1) 小瀬村幸子：オペラの翻訳
- (2) 菅田茂昭：派生と合成—生成形態論的アプローチ

第 15 回 (1991.5.11)

- (1) 野村昌幸：13 世紀後半におけるアラゴン連合王国のシチリア進出—王太子ペドロとシチリア問題
- (2) 工藤裕子：イタリアの都市政策—景観にみるその理論と現実

第 16 回 (1991.6.15)

- (1) 北田葉子：ガリレオとイエズス会士
- (2) 正富りか：14, 5 世紀、イタリア中部のテベ図—その図像モチーフの

考察

第17回 (1991.10.12)

- (1) 小林勝：両大戦間におけるフィレンツェ文化の概観
- (2) 長谷川正允：ローマのバロック建築

第18回 (1991.12.7)

- (1) 勝田由美：アンナ・マリア・モッツォーニの生涯と活動
- (2) 北田葉子：ガリレオとメディチ家

第19回 (1992.2.7)

- (1) 高橋朋子：ティツィアーノの「スポレートの戦い」をめぐって
- (2) 工藤裕子：イタリアの都市文化—ミラノをめぐって

第20回 (1992.5.9)

- (1) リア・ベレッタ：御雇外国人キヨッソーネ
- (2) 馬場広信：パゾリーニと1949年—「或ること」の夢と崩壊

第21回 (1992.6.27)

- (1) 厚見恵一郎：マキャベッリの政治思想
- (2) 河上眞理：ジョルジョーネ研究—ドイツ商館外壁壁画について—

第22回 (1992.9.26)

- (1) 小森谷慶子：アヴァンギャルド建築家 G.L. ペルニーニ
- (2) 亀崎勝：マサッチョー再生したジオット—

第 23 回 (1992.12.5)

- (1) 徳家統：建築の風景
- (2) 増山暁子：ドロミティ・アルプス（ラディン語地域）の伝説について

第 24 回 (1993.5.29)

- (1) 小林勝：パピーニとプレッツォリーニ—フィレンツェ1899年—
- (2) 勝田由美：解放主義の女性運動（1890年から1908年まで）

第 25 回 (1993.7.3)

- (1) 田畑賀世子：4世紀後半の国家と教会—381年アキレイア公会議を中心に—
- (2) 藤岡寛己：第一次大戦後のカトリック系労働組合

第 26 回 (1993.10.2)

- (1) 五十嵐勇：16世紀イタリア料理法のフランスに及ぼした影響について—カトリクス・メディシスとプラティネ
- (2) 森尾総夫：カルロ・ギンズブルグの『ピエロ・デッラ・フランチェスカ』をめぐって

第 27 回 (1993.12.4)

- (1) Maurizia Aigner：Due poeti crepuscolari：Guido Gozzano e Sergio Corazzini
- (2) 松浦千誉：イタリアの離婚法

第 28 回 (1994.2.5)

- (1) 高橋利安：イタリア第一共和制の終焉—新しい選挙法について

- (2) 山本信司：フリウリ語とその位置について

第29回（1994.4.23）

- (1) 河上眞理：チーマ・ダ・コネリアーノについて
- (2) 増山暁子：イタリアの散文トリスタン「ターヴォラ・リトンダ」

第30回（1994.6.25）

- (1) 菅田茂昭：イタリア語の地中海的要素
- (2) Giuseppina Cerulli：L'Italia ponte dei popoli mediterranei（地中海の人々のかけ橋としてのイタリア）

第31回（1994.10.15）

- (1) 飯田玲：ジャック・カロの肖像について
- (2) Giorgio Amitrano：Tendenza della narrativa contemporanea in Giappone e in Italia

第32回（1994.12.3）

- (1) 高橋朋子：画家・パトロン・戦争—ジョルジョーネの《テンペスタ》とティッツィアーノの「戦争画」
- (2) 坂崎則子：ルネッサンス・リュート音楽におけるイタリアの影響力

第33回（1995.2.4）

- (1) 中島康：冷戦下におけるイタリアの NATO 外交
- (2) 河上眞理：16 世紀ヴェネツィアにおける「田園風景画」の成立について

第34回 (1995.4.22)

- (1) 市野奈都子：システイーナ礼拝堂天井画 その成り立ちと問題点
- (2) 増山暁子：ディーノ・ブッツァーティの東京だより

第35回 (1995.7.1)

- (1) ルチアーナ衣川：Paganini ed il suo allievo, Camillo Sivori
- (2) 島津紀久子：電波でつなぐイタリアと日本

第36回 (1995.10.7)

- (1) 小林勝：世紀末フィレンツェの文化状況—高等研究所と雑誌イル・マルゾッコ
- (2) 大原まり子：シモーネ・マルティーニの祭壇画に関する一考察

第37回 (1995.12.2)

- (1) Alda Nannini：L'apprendimento della relativizzazione in descenti di madrelingua giapponese, osservazioni e proposte didattiche
- (2) 藤谷道夫：ダンテの表現形式—ラテン文学との関連において—

第38回 (1996.2.3)

- (1) 田中由称子：イタリアの磔刑図について—チマブエを中心に
- (2) 堤康德：映画「自転車泥棒」とイタリア人の生活

第39回 (1996.5.11)

- (1) 日置拓人：戦前のイタリアの集合住宅
- (2) 吉田光司：ジョヴァンニ・シモーネ・マイル—イタリアのドイツ人

第40回 (1996.6.29)

- (1) ルチアーナ衣川：Sibilla Aleramo：Una donna
- (2) 片桐頼統：レオナルド・ダ・ヴィンチの遠近法と視覚のメカニズムの探究

第41回 (1996.10.12)

- (1) 軍侍紀子：近代イタリアにおける言語の問題
- (2) 藤谷道夫：建築としての神曲

第42回 (1996.12.7)

- (1) 山本真司：西洋中世キリスト教世界の言語モデル？
- (2) 増山暁子：北伊古城とアーサー王文学

第43回 (1997.1.25)

- (1) 木名瀬紀子：ヴァザーリの表現 Amori をめぐる解釈試論—ゼフェロスとクロリス
- (2) 田辺清：フラ・バルトロメオの《聖母子像》について

第44回 (1997.5.24)

- (1) 藤澤明寛：古代イタリア都市経済の一側面
- (2) 堤康德：翻訳をめぐるタブッキの短篇について

第45回 (1997.7.5)

- (1) 吉田光司：プッチーニの蝶々夫人の初演と改訂について
- (2) 田畑賀世子：イタリアにおける古事古物学研究—現代古代史学の成立

第 46 回 (1997.10.11)

- (1) 小森谷慶子：パラティーノの丘、その遺蹟と再整備計画について
- (2) Alda Nannini：Costi e costà：un aspetto della deissi nel toscano

第 47 回 (1997.12.6)

- (1) Silvana De Maio：Il conte Fè d'Ostiani nei rapporti fra Italia e Giappone negli anni settanta dell'Ottocento
- (2) 鈴木信五：動詞の前方の要素とコントラスト—古イタリア語と現代イタリア語の場合

第 48 回 (1998.2.5)

- (1) Alessandro Gerevini：Banana Yoshimoto in Italia
- (2) 青木洋一郎：ダンテの見たイタリア語（「俗語詩論」の場合）

第 49 回 (1998.5.9)

- (1) 中嶋康：イタリア外交政策の地政学的要因
- (2) 児嶋由枝：フィデンツァ大聖堂のファサード彫刻—二つの家族像をめぐって—

第 50 回 (1998.6.27)

- (1) 團名保紀：ピサ大聖堂内ティーノ・ディ・カマイーノ作洗礼盤のサインについて
- (2) Giuseppina Cerulli：Gli ultimi orientamenti della ricerca italiana delle antichità

第51回 (1998.10.3)

- (1) 東哲史：イタリア語の時制とアспект
- (2) Marco Sbaragli：Miti e realtà del colonialismo italiano

第52回 (1998.12.5)

- (1) N. Dessardo：Il Vivaldi sconosciuto ovvero il Vivaldi del melodramma
- (2) 木名瀬紀子：フィレンツェ洗礼図への新視点

第53回 (1999.2.6)

- (1) 小林勝：プレッツォリーニとレッジョ・エミーリア
- (2) 吉田光司：フランコ・アルファードとイタリアオペラの終焉

第54回 (1999.5.15)

- (1) 工藤裕子：ボローニャと「オリーブの木」—政治的伝統と市民参加
- (2) 一ノ瀬俊和：草の根の日伊交流—チェルタルドと甘楽町の場合

第55回 (1999.7.3)

- (1) 藤岡寛己：ローマ会議とローマ協定（1918年4月）
- (2) 鈴木信五：ラテン詩からロマンス詩へ

第56回 (1999.10.2)

- (1) ルチアーナ衣川：Per quale motivo gli studenti di Waseda s'iscrivono al corso elementare d'italiano?
- (2) 島津紀久子：イタリア人の質問

第 57 回 (1999.12.4)

- (1) 五十嵐勇：ローマの料理法のフランスへの影響—アピキウスとタイユヴァン
- (2) 谷古宇尚：ナポリ・アンジュー家の 2 人の女性寄進者、ハンガリーのマリアとマヨルカのサンチャードンナレジーナ聖堂とサンタ・キアラ聖堂について

第 58 回 (2000.2.5)

- (1) 木名瀬紀子：W. Welliver 以降の「ボッティチェリ《ヴィーナス誕生》の研究史」研究
- (2) 堤康德：マリオ・カメリーニの知られざる秀作

第 59 回 (2000.5.13)

- (1) 東哲史：Italia と Vulgata —ラテン語聖書について
- (2) 西村安弘：アントニオーニ作品における自己言及性

第 60 回 (2000.7.1)

- (1) 辻昌宏：パリオとバステアニーニ
- (2) 黒田泰介：ルッカの古代ローマ円形闘技場遺構の住居化について

第 61 回 (2000.10.7)

- (1) 大島久美子：アンドレア・マンテーニャ作《サン・ゼーノ祭壇画》考察
- (2) 青木洋一郎：トロンカメントについて

第 62 回 (2000.12.9)

- (1) 小林勝：プレッツォリーニのアメリカにおける教師体験

- (2) 片桐頼統：レオナルドの最後の晩餐—修復の結果から言えるもの

第63回 (2001.2.10)

- (1) 住岳夫：イタロ・カルヴィーノ—知覚の問題
(2) 上野まさみ：ダンテ『神曲』における出エジプトの概念

第64回 (2001.5.12)

- (1) 毛塚実江子：『ベアトウス黙示写本挿絵』における図像伝播再考—ヘローナ本を中心に
(2) 辻本政雄：アリタリア—ハンガリー航空提携解消に見る、グローバル・アライアンス成否の要因

第65回 (2001.7.7)

- (1) Marco Biondi：Il romanzo “Baudolino” di Umberto Eco：contesto storico culturale
(2) 木川博弘美：イメージの伝達—初期ネーデルランド絵画とイタリアルネサンス

第66回 (2001.10.6)

- (1) 住岳夫：『書簡集』を手掛かりに後期カルヴィーノ作品を読む
(2) 中村勝己：ピエロ・ゴベッティの自由主義革命思想

第67回 (2001.12.8)

- (1) 大川智子：イタリアを描いたオランダ人
(2) 山本真司：アクイレイアの総司教座の成立とその言語史上の影響について

第 68 回 (2002.2.9)

- (1) 川井繁巳：18 世紀、ミラノにおけるイタリア語革新運動
- (2) 水谷彰良：日本における 19 世紀イタリア・オペラ研究の現状とその問題点

第 69 回 (2002.5.11)

- (1) 平泉千枝：光と影の画家ジョルジュ・ド・ラトゥールに見るイタリアの影響—モンテパトリというトポスからの一考察—
- (2) 白井理恵：近代ピエモンテ研究の諸問題—国家と貴族の語るもの

第 70 回 (2002.7.6)

- (1) 松本晴子：アントニオーニとアメリカ—芸術映画とハリウッド—
- (2) 鹿野陽子：水都ミラノ—運河のランドスケープ

第 71 回 (2002.10.19)

- (1) 小野寺暁之：ブツァーティ研究—閉じた空間についての考察—
- (2) 片山伸也：中世後期シエナの住宅建築について

第 72 回 (2002.12.7)

- (1) 吉田香澄：中世後期の宗教建築におけるポリクロミアについて
- (2) 中谷昭子：ベンヴェヌート・チェッリーニの作品と生涯

第 73 回 (2003.2.8)

- (1) 田畑賀世子：六世紀イタリアの都市—古代から中世へ
- (2) 椎名規子：イタリアにおけるドメスティック・バイオレンス防止新法 (2001 年) について—日本法と比較して—

第74回 (2003.5.17)

- (1) 高津美和：サヴォナローラの説教に対するフィレンツェ市民の反応—ドメニコ・チェッキ『聖なる尊い改革』—
- (2) 河上眞理：アントーニオ・フォンタネージの来日経緯再考

第75回 (2003.7.12)

- (1) 木名瀬紀子：19世紀英国絵画と16世紀イタリア・ルネサンスの美術理論—フレデリック・レイトンが《チマブーエの名高い聖母像》と《ブルネッレスキの死》においてジョルジョ・ヴァザーリから学んだフィレンツェ芸術への憧憬と情熱
- (2) マリア・アルフォンサ鈴木：チェーザレ・パヴェーゼ：初期の作品群について

第76回 (2003.10.18)

- (1) 神谷久美子：マンテーニャ作『パルナッソス』について
- (2) 青木香代子：16・17世紀 ヴェネツィアの劇場について

第77回 (2003.12.6)

- (1) 小林勝：第一次大戦とプレッツォリーニ
- (2) 赤松加寿江：15, 16世紀フィレンツェの祝祭空間—都市空間にみる権力とスペクタクルの展開

第78回 (2004.2.7)

- (1) Lia Beretta：L'inizio dei rapporti fra l'Italia e il Giappone nell'epoca Meiji
- (2) 菅田茂昭：イタリア語と私

第 79 回 (2004.5.8)

- (1) 奥田耕一郎：アントニオ・サンテリア (1888 — 1916) の建築ドローイングについて
- (2) 東哲史：ラテン語賛歌の韻律

第 80 回 (2004.7.17)

- (1) 沼野雄司：20 世紀のイタリアの作曲家—ルチアーノ・ベリオとルイジ・ノーノを中心に
- (2) 小倉康之：ヴァチカンのサン・ピエトロ旧聖堂とローマ式平面型に関する一考察—貫通型トランセプトの宗教上の機能、および空間表象について

第 81 回 (2004.10.16)

- (1) 丹羽誠士郎：パルマ・ピアチェンツァ公オッターヴィオ・ファルネーゼの音楽パトロン活動
- (2) Michele Camandona：A Est di Tokyo

第 82 回 (2004.12.11)

- (1) 松平俊久：異形の図像学—イタリア・ラヴェンナの怪物像をめぐって
- (2) 藤岡寛己：未来派と原初的ファシズム

第 83 回 (2005.3.19)

- (1) 三浦清美：アリストテレ・フィエラヴァンティ・ダ・ボローニャとロシア建築
- (2) 大崎さやの：カルロ・ゴッツィのゴルドーニ演劇批評

第84回 (2005.5.14)

- (1) 高田和広：見ること / 見られること—ルイーージ・ピランデッロ研究
- (2) 木名瀬紀子：英国の画家フレデリック・レイトンとイタリア

第85回 (2005.7.16)

- (1) 古田耕史：ジャコモ・レオパルディの「無限」をめぐる
- (2) 池上英洋：嬰兒を殺したのは誰か—十五世紀北中部イタリアの諸相—

第86回 (2005.10.15)

- (1) 花本知子：アントニオ・タブッキ『トリスターノは死ぬ』(2004)について
- (2) 林要一：イタリア人と笑話 (Le barzellette)

第87回 (2005.12.10)

- (1) 高津美和：16世紀イタリアの宗教的亡命者—ベルナルディーノ・オキーノの信仰—
- (2) 山崎彩：トリエステのズヴェーヴォ・ズヴェーヴォのトリエステ

第88回 (2006.3.11)

- (1) 小田原琳：ジョヴァンニ・ヴェルガと〈南部〉の表象
- (2) 花本知子：Antonio と Antonio—アントニオ・タブッキと父

第89回 (2006.5.13)

- (1) 増田千穂：15, 6世紀イタリアにおけるシビュラ像興隆の背景について
- (2) 関根弘子：アルプス南麓の近世の巡礼施設：ヴァラッロのサクロ・モンテ—その「代用エルサレム」時代の形態を中心に—

第 90 回 (2006.7.15)

- (1) 青木洋一郎：anni の前の数字について
- (2) 古田耕史：レオパルディとスタール夫人―〈自然〉と〈想像力〉をキーワードに

第 91 回 (2006.10.7)

- (1) 鈴木信五：イタリア語における情報構造の通時的再編成と接語代名詞の位置
- (2) 小野寺暁之：ブツァーティにおけるミラノ

第 92 回 (2006.12.16)

- (1) 大歳剛史：『フィローコロ』、『フィローストラト』、『テーセイダ』におけるボッカッチョの自己描写
- (2) 梶田知史：剣闘士 (gladiator) の墓碑銘について

第 93 回 (2007.3.17) 両大戦間のイタリアー文化と社会

- (1) 小林勝：ヴァスコ・プラトリーニと雑誌《カンポ・ディ・マルテ》
- (2) 戸田三三冬：1920 年代のエッリコ・マラテスタ
- (3) 中村勝己：《自由の宗教》のフォルトゥーナ～ヘーゲル・クローチェ・ゴベッティ
- (4) 藤岡寛己：グラムシと未来派〈マリネッティ〉
- (5) 奥田耕一郎：未来派建築の変容～第一次大戦後のアントニオ・サンテリア
- (6) 堤康德：未来派とファシズム
- (7) 西村安弘：国民映画としてのトーキー：マリオ・カメリーニを中心に
- (8) 山田高誌：第一次大戦前後における 18 世紀ナポリ楽派研究とその広が

り～前衛をも生み出したナポリの《愛国主義》の成果

第94回 (2007.5.12)

- (1) 福山佑子：バエティカにおける属州政策
- (2) 木名瀬紀子：現代美術が受容したイタリア・ルネサンスの遠近法について

第95回 (2007.6.9)

Nello Barile, Andrea Miconi : Immaginari di transizione tra vecchi e nuovi media

第96回 (2007.7.14)

- (1) 伊藤怜：12世紀ローマにおける壁画装飾とイコンに関する一試論
- (2) 土肥秀行：パウンドとパゾリーニ：失われた父性

第97回 (2007.10.13)

- (1) 金光真理子：サルデーニャの舞踊音楽の構造—ラウネッダスの舞踊曲のイスカラ概念をめぐって
- (2) 市川慎一：ファシズムへのレジスタンスの一面—ヴァッレ・ダオスタの場合

第98回 (2007.12.22)

- (1) 古田耕史：Leopardi dionisiaco? —陶酔と熱狂のあいだ
- (2) 金沢文緒：英国風景画家リチャード・ウイルソンのイタリア滞在—《アポロと四季》をめぐって

第 99 回 (2008.3.8)

- (1) 森田学：歌唱イタリア語の発音をめぐって—美しいイタリア語の発音に向けて—
- (2) 小倉康之：ロマネスク様式の起源—ロンバルディアとカタルーニャの教会建築について—

第 100 回 (2008.5.17)

- (1) 小林明子：セバスティアノー・デル・ピオンボの絵画技法—石版画を中心に
- (2) Alessandro Giovanni Gerevini：Editoria italiana e letteratura giapponese

第 101 回 (2008.7.19)

- (1) 酒井薫：15 世紀後半ジェノヴァとオスマン朝の外交
- (2) 花本知子：非人称の tu をどう教えるか

第 102 回 (2008.10.11)

- (1) 中村勝己：プレッツォリーニとゴベッティー《文化の組織者》の系譜
- (2) Stefano Carletti：〈Il muro della Terra〉 di Giorgio Caproni

第 103 回 (2008.12.13)

- (1) 神谷久美子：ルネサンス都市国家における作品蒐集—その意義および受容に関する一試論
- (2) 高津美和：16 世紀ルッカにおける宗教改革思想の流入

第 104 回 (2009.1.24)

- (1) マルコ・マッツィ：イタロ・カルヴィーノ『見えない都市』論（オリジ

ナル・ビデオ作品の上映あり)

- (2) 土肥秀行：初期ウンガレッティとハイク

第105回 (2009.3.7)

- (1) 芳賀理恵：15世紀後半フィレンツェの〈トピアの天使〉をめぐって—
アウグスティヌス会とメディチ派の女性を中心に—
- (2) 尾河直哉：ピノッキオの鼻はなぜ伸びるのか?—『ピノッキオのぼうけん』における身体をめぐって—

第106回 (2009.5.16)

- (1) 尾崎有紀子：日本近代における同時代イタリアの視覚イメージ—明治～
昭和戦前期の大衆雑誌・児童書を中心に—
- (2) 牧野素子：アントニオ・タブッキの「インド夜想曲」の一解釈—ペソア
と自分探しの旅物語

第107回 (2009.7.11)

- (1) 大歳剛史：ボッカッチョの寓意詩における理想化された“amore”
- (2) 伊藤拓真：聖母マリア伝としてのプラート大聖堂ステンドグラス再構成

第108回 (2009.9.19)

- (1) 今津牧：第二言語としてのイタリア語—日本人学習者の発話と作文の統
語分析—
- (2) 北村紀久子：丘上都市ペルージア—中世の都市計画と古代エトルリア市
門の変容—

第 109 回 (2009.12.5)

- (1) 長沢朝代：ピエロ・デッラ・フランチェスカ作《聖十字架物語》—プロパガンダとしてのコンスタンティヌス帝を中心に—
- (2) 山崎彩：『ゼーノの意識』への道—沈黙期に書かれた未発表の短編小説をめぐって

第 110 回 (2010.1.30)

- (1) 古田耕史：レオパルディの反“ロマン主義”について
- (2) 北川佳子：ファシズム期コモの建築家 テラーニとカッターネオ

第 111 回 (2010.5.15)

- (1) 尾河直哉：薪ざっぽうとサメの腹—『ピノッキオのぼうけん』における聖書—
- (2) 牧野素子：アントニオ・タブッキの作品が持つ曖昧さの魅力—短編 Isole「島々」所収 Piccoli equivoci senza importanza『とるにたらない小さな行き違い』(1985) を例に

第 112 回 (2010.7.10)

- (1) 本田亜沙子：イタリア・ベルルスコーニ政権における年金改革—政策決定過程の検討を中心に
- (2) 花本知子：日本語のあいづち、イタリア語のあいづち

第 113 回 (2010.10.2)

- (1) 尾崎有紀子：大正期日本におけるイタリア受容の諸相—『クオーレ』と『伊国小学読本』を中心に
- (2) 遠藤孝：アガンベンの潜勢力と政治

第114回 (2010.10.16)

- (1) Alda Nannini : Riflessioni su un sillabo di lingua italiana per un corso intermedio
- (2) Francesco De Renzo : Lessico. Istruzioni per l'uso

第115回 (2010.12.4)

- (1) 飯田洋介 : ローマ駐在ドイツ外交官の群像 (1871 — 1914)
- (2) 河野英二 : カール・クラウスとイタリアー自然・文化・思想の観点からみた風刺家の「根源」 —

第116回 (2011.1.29)

- (1) 萩原里香 : 17世紀初期の音楽劇における文体についての一考察
- (2) 倉重克明 : ジョヴァンニ・ヴェルガ『山の炭焼き党員』(1861 — 62)の語り手の性質—マンゾーニとの比較を通して—

第116回 (2011.5.14)

- (1) 原田亜希子 : 16世紀後半におけるローマ市行政組織—コンセルヴァトーレの活動を中心に—
- (2) 奥田耕一郎 : ドーポラヴォーロのつくった家具—1927-29年の .N.D. による邸宅内部への介入について

第118回 (2011.6.11)

- (1) 桑原夏子 : 顕現する聖天使—フラ・フィリッポ・リッピ作《バルバドーリ祭壇画》における立像聖母子表現をめぐって—
- (2) 名尾良泰 : 英語から覚えるイタリア語—イタリア語 felice (幸せな) とは、アニメの黒猫 Felix のことです—

第 119 回 (2011.7.2)

- (1) 吉澤明：70 年代イタリア議会外左翼の運動からイタリア社会の特質を
探る
- (2) 吉田昇司：イタリア美術と、弦楽器のデザイン

第 120 回 (2011.10.8)

- (1) 原口昇平：生成する回想—ダンヌンツィオの詩に基づくピッツェッティ
の歌曲《牧人たち》の原理
- (2) 林克彦：ピエロ・デッラ・フランチェスカ作《モンテフェルトロの二連
画》制作動機に関する一試論

第 121 回 (2011.11.19)

Michele Camandona, Chiara Zamborlin : Stili della comunicazione : Manuale
d'Amore コミュニケーションスタイル：「恋愛マニュアル」

第 122 回 (2012.1.28)

- (1) 羽鳥恵津子：イタリア解放運動とイギリスのメディア
- (2) 福山佑子：祭司団記録におけるダムナティオ・メモリアエー断罪された
ローマ皇帝名の削除をめぐる

第 123 回 (2012.5.12)

- (1) 趙泰昊：Geoffrey Chaucer の『Troilus』と Boccaccio の理想化されたド
ンキホーテ的な騎士の系譜
- (2) 太田智子：トスカーナ大公妃マリア・マッダレーナ・ダウストリアの結
婚入場式（1608 年）の考察

第124回 (2012.6.30)

- (1) 新倉慎右：ミケランジェロ作サンタ・マリア・ソプラ・ミネルヴァ聖堂の《キリスト》再考—再発見されたバツサーノ作品との比較を通じた造形分析—
- (2) 高津美和：16世紀ルッカにおけるアオニオ・パレアリオの教育活動：上級学校教師着任の経緯をめぐって

第125回 (2012.10.16)

- (1) 阿部雅子・森田学：歌唱イタリア語の発音・発声と表現
- (2) Valerio Alberizzi：Gli studi sulla lingua giapponese in Italia：Storia e situazione presente（イタリアにおける日本語学の歴史と現状）

第126回 (2012.12.1)

- (1) 向井華奈子：16世紀の言語問題—「はじめての」イタリア語文法書をめぐって—
- (2) 高雄有希：エーコの小説における知の“laicità”

第127回 (2013.1.26)

- (1) 小檜山明恵：パヴェーゼと神話
- (2) 藤沢桜子：『米欧回覧記』と古代ローマ文明

第128回 (2013.4.27)

- (1) 津田悠一郎：イタリア語の音韻構造
- (2) 倉科岳志：晩年期のクローチエーファシズム病氣論と弁証法の起源

第 129 回 (2013.6.29)

- (1) 山手昌樹：ファシズム時代の国内移民
- (2) 奥田耕一郎：ドーポラヴォーロ事業団の余暇施設

第 130 回 (2013.10.5)

- (1) 津澤真代：15 世紀フィレンツェにおける学位取得者とキャリア形成
- (2) 中島裕美子：フェデリコ・トッツィ 無意識の探究

第 131 回 (2013.11.30)

- (1) 星野友里：ナチス・ドイツの対イタリア外交における南ティロール
- (2) 糸隆太：畜産業と古代ローマの市民理念

第 132 回 (2014.1.25)

- (1) 三浦香里：聖家族と子羊をめぐって—プラド美術館のラファエロ作品—
- (2) 菅田茂昭：没後 100 年ソシュール『一般言語学講義抄』の新対訳について

第 133 回 (2014.4.19)

- (1) 萩原里香：舞台上演責任者「コラーゴ」：人物像に関する考察
- (2) 牧野素子：アントニオ・タブッキ『供述によるとペレイラは・・・』から始まる考察—現代反ユダヤ主義とその対策

第 134 回 (2014.7.19)

- (1) 坂田道生：ピアッツァ・アルメリーナのヴィツラに関する一考察—小狩 獵図に基づいて—
- (2) 千野貴裕：近代国家と未来社会—グラムシにおける「倫理国家概念」を

再考する

- (3) 永井裕子：ピントリッキオと周辺画家による書物を伴う聖母子像の型の利用

第135回 (2014.10.4)

- (1) 櫻井麻美：1500年代後半のイタリア庭園における「森」の意味—ボマルツォの「聖なる森」の場合
- (2) 高橋春菜：イタリア公教育における学校外教育の位置づけの変化について—1985年版「公教育プログラム」と2012年版「国のカリキュラム指針」および制定の経緯に着目して

第136回 (2014.11.29)

- (1) Zane D.R.Mackin：Dante e la predicazione medievale：all'incrocio di retorica, poesia e teologia
- (2) 桑原夏子：地震とラクイラ美術：ラクイラ復興の現状報告と、サンタ・マリア・アド・クリプタス教会北壁装飾プログラムの考案期についての一試論

第137回 (2015.1.24)

- (1) 河村英和：19世紀カプリ島に訪れた外国人芸術家たちとホテル・パガーノ
- (2) 山崎彩：クラウディス・マグリス『ミクロコスモス』をめぐって

第138回 (2015.5.16)

- (1) 高橋謙公：13世紀後半の地中海世界と港—シチリア王国の港湾管理—
- (2) 新谷崇：カトリック聖職者のファシズム体制への支持形成について

第 139 回 (2015.6.27)

- (1) 向井華奈子：16 世紀イタリア語文法における条件法の扱いについて—
ピエトロ・ベンボを中心に—
- (2) 杉山博昭：聖史劇が上演する聖別と瀆聖

第 140 回 (2015.10.3)

- (1) 横田さやか：ジャンニーナ・チェンシと〈飛行する身体〉—未来派的〈飛行する身体〉が〈航空ダンス〉に昇華するまで
- (2) 巖谷睦月：ルーチョ・フォンターナと 1930 年代ミラノの抽象 カルロ・ベッリ、エドアルド・ペリシコ

第 141 回 (2015..12.5)

- (1) 土肥篤：イタリア語における与格用法分類について
- (2) 東哲史：イタリア語とフランス語の時制・法の比較

第 142 回 (2016.1.30)

- (1) 田中麻里奈：現代演劇における、音のドラマトゥルギー～空間を作曲する～—キアラ・ディーディ（演劇カンパニー ソチエタス・ラファエル・サンツィオ）、ニコラ・サーニ（ボローニャ歌劇場芸術監督）による現代演劇における音空間形成の手法
- (2) 越前貴美子：物語空間としてのトリノ 『創作された青春時代』における「風景」の役割

第 143 回 (2016.5.7)

- (1) 阿久澤弘陽：補文を取る動詞“dimenticare”と再構造化現象—日本語の「忘れる」との比較から

- (2) 小久保真理江：チェーザレ・パヴェーゼの“la trilogia delle macchine”
における身体

第144回 (2016.6.25)

- (1) 原田亜希子：16世紀の空位期（Sede vacante）における都市ローマ
- (2) Daniela De Palma：Le relazioni tra Giappone e Russia dal 1945 ad oggi

第145回 (2016.10.1)

- (1) 増永業生：書記官イヴァーニの活動から見る1470年代フィレンツェの
領域統治
- (2) 高橋春菜：戦後における地域教育生みの親としてのコムーネ・ボロー
ニャを事例として

第146回 (2016.12.3)

- (1) 松井健太：1950年代から1960年代にかけてのアルド・ロッシの建築言
語の変化について
- (2) 清野佳奈絵：イタリアの出稼ぎ労働者—ローマのバングラデシュ人を例
に—

第147回 (2017.1.28)

- (1) 道家英穂：『神曲』と引喩—『アエネーイス』、『失われた時を求めて』
と関連して
- (2) 渡辺有美：フィリッポ・リッピとプラート大聖堂壁画の再考察—社会的
背景とイコノグラフィ—

第 148 回 (2017.4.22)

- (1) 塚原義央：古代ローマ帝政前期の皇帝顧問会 *consilium principis* について—法学者との関係を中心にして—
- (2) 横田太郎：レオン・バッティスタ・アルベルティ『文芸の利益と不利益』と同時代の学問界：勉学と快樂に関する議論をめぐって

第 149 回 (2017.7.1)

- (1) 藤崎悠子：ロツビア工房における施釉テラコッタ彫刻の制作技法研究—素焼きまでの工程を中心にして—
- (2) 大西克典：近世イタリア都市工業と啓蒙改革：十八世紀トスカーナにおける絹織物工業保護

第 150 回 (2017.10.14) 150 回記念例会

- (1) 千野貴裕：グラムシ研究の現在と未来
- (2) 古田耕史：レオパルディにおける愛と死
- (3) 伊藤拓真：ギルランダイオ工房のイメージと実態—15 世紀フィレンツェの芸術家工房
- (4) 奥田耕一郎：近代とモニュメント
- (5) 小林勝：ムッソリーニとプレッツォリーニ
- (6) 高田和文：ダリオ・フォーの演劇活動をふりかえる
- (7) 篠塚千恵子：或るアブリア戦士の墓—古代南イタリアの陶器の開始状況について
- (8) 陣内秀信：アマルフィ海岸の都市と地域の空間構造
- (9) 菅田茂昭：ロマンス語の中のイタリア語

第151回 (2017.12.2)

- (1) 土肥篤：イタリア語における心態詞
- (2) 丸本隆：歴史か、神話か？—“リソルジメント・オペラ”の評価をめぐって
- (3) 森佳子：プッチーニ《蝶々夫人》とジャポニズム

第152回 (2018.1.27)

- (1) 福山佑子：ネロの記録と69年の内乱：帝政初期ローマにおける記憶の破壊と帝位継承
- (2) 永井裕子：ピントリッキオにおけるアレクサンデル6世のための壁画と肖像への関心—ヴィオのコレクションを参照として

第153回 (2018.5.12)

- (1) 石田聖子：イタリア映画の身体表象—1910年代を中心に
- (2) 牧野素子：ウンベルト・エーコ『プラハの墓地』に見る背景と問題提起

第154回 (2018.7.7)

- (1) 大塚将太郎：中世盛期の教皇庁と情報管理
- (2) 稲益祐太：トランスマンツァの空間構造

第155回 (2018.9.22)

- (1) 古田耕史：レオパルディにおける死の瞑想
- (2) 藤澤大智：レオパルディの唯物論
- (3) Mario Andrea Rigoni : Leopardi, i costumi degli italiani e l'Occidente moderno

第 156 回 (2018.10.6)

- (1) 川合真木子：17 世紀前半のナポリ絵画とパオロ・フィノーリアの制作活動
- (2) 湯上良：近世後期の情報管理—ヴェネツィアとヨーロッパの比較—

第 157 回 (2018.12.1)

- (1) 石井沙和：フリウリ・ヴェネツィア・ジュリアにおける未来派の形成
- (2) 池野絢子：カルロ・カッラにおける「秩序回帰」と「純粹絵画」—イタリア美術におけるモダニズムの再考へ向けて
- (3) 土肥秀行：マリネッティの“規範回帰”—国際的展開と演劇批評

第 158 回 (2019.1.26)

- (1) 小林勝：イタリア言語・文化研究会と私のプレッツォリーニ研究—退職にあたって
- (2) 佐原広基：イタリア語文法史における〈前置詞 a/in + 都市名〉の用法について
- (3) 藤澤大智：レオパルディの「唯物主義」2—唯物主義二段階論の批判—